(2) 食料品・飲料等製造業

◆ 概要

ここでは，産業中分類の食料品製造業と飲料・たばこ・飼料製造業を合わせて食料品・飲料等製造業とする。

平成18年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）によると，事業所数は380所で，前回（平成17年）比較では，25所減少（対前回（平成17年）増加率△6.2%）している。従業者数は11,033人で，前回（平成17年）比較では，187人の減少（同△1.7%）となっており，平成13年をピークに減少を続けている。製造品出荷額等は5,996億40百万円で，前回（平成17年）比較では，7億91百万円の減少（同△0.1%）となっており，2年連続で減少している。

京都市の製造業に占める食料品・飲料等製造業の割合は，事業所数が12.0%，従業者数は15.3%，製造品出荷額等は26.7%となっている。

平成9年からの推移を見ると，事業所，従業者数は増減しながらも緩やかな減少傾向にある。製造品出荷額等は，平成14年から増加傾向にあったが，平成16年をピークに緩やかな減少傾向に転じ，平成18年はわずかな減少となった〔表Ⅱ－3－2－1，図Ⅱ－3－2－1〕。

平成18年の製造品出荷額等の内訳は，食料品が1,389億87百万円，飲料・たばこ・飼料が4,606億53百万円となっている。

◆ 市内の食料品・飲料等製造業の特色

食料品・飲料等製造業の製造品出荷額を産業細分類別に見ると，清酒製造業が530億86百万円（構成比8.9%）で最も多く，次いで生菓子製造業の313億55百万円（同5.2%），他に分類されない食料品製造業の125億11百万円（同2.1%）の順となっている〔表Ⅱ－3－2－2〕。

なお，飲料・たばこ・飼料製造業の事業所数は36所であり，清酒製造業以外の業種では4所以下となっており，平成18年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）では特定を避けるために，製造品出荷額等の公表が差し控えられている。よって，産業細分類別ごとの分析は困難であるが，製造品出荷額等が食料品製造業を大きく上回っているのは，大手飲料メーカーやたばこメーカーの工場が立地しているからである。

① 清酒製造業

市内の清酒製造業は，そのほとんどが伏見区に集積している。伏見区には，長年の歴史の中で培われた醸造技術や良質な水が豊富にある。江戸時代には京と堺を繋ぐ水陸運の要所として栄え，現代に残る清酒製造業なども創業し醸造地基盤を形成した。明治時代後半には，国内有数の清酒醸造地として，兵庫県の灘と並び称されるまでの地位を確立した。

平成18年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）によると，京都市の清酒製造業は事業所数22所，従業者数873人，製造品出荷額等530億86百万円であり，また，平成17年度国税庁統計年報書によると，伏見地区の酒税課税数量は112,909キロリットルと減少気味ではあるが，全国に占める割合は15.1%となっており，数量は減少しつつも割合は増加している。下降気味な兵庫県灘地区の数値とは対照的に，堅調な推移を見せている〔表Ⅱ－3－2－3〕。

総務省の平成19年家計調査年報によると，全国における「清酒」の消費動向は減少傾向にあり，平成11年からの減少率は34.7%となっている。それに比べ，「焼酎」，「その他の酒類」の消費は増加しており，平成11年から共に約1.4倍になっている。これは，焼酎や発泡酒等が堅調に消費者に受け入れられていることと，各メーカーの商品多様化の影響が反映している〔表Ⅱ－3－2－4，図Ⅱ－3－2－2〕。

このように，酒類業界は消費者の嗜好多様化を背景に，焼酎市場と発泡酒等の低アルコール飲料市場が拡大傾向にあり，大手各社はアイテムの多様化を進めるべく新商品開発に力を入れており，開発余力や体力のない企業の淘汰が進んでいる。

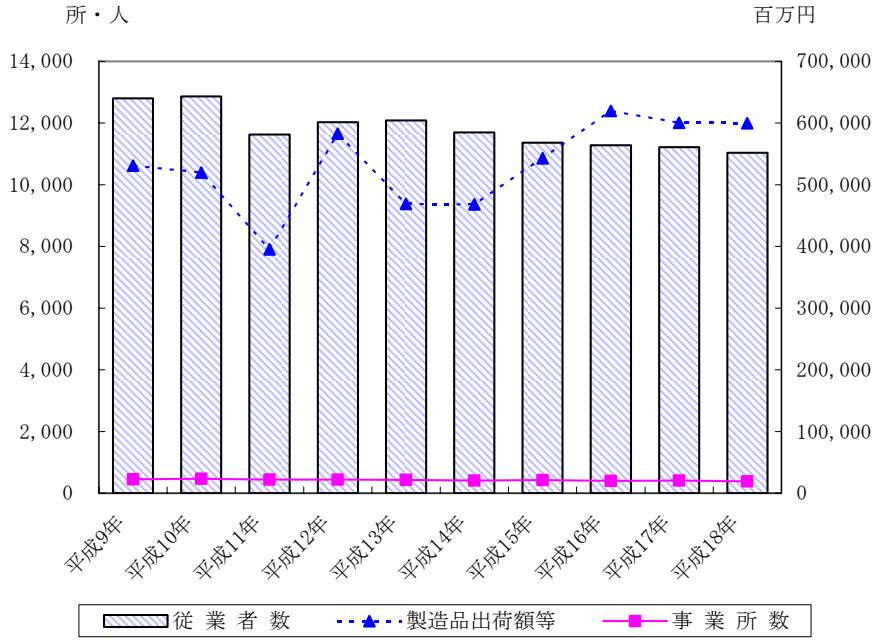
表Ⅱ－３－２－１　食料品・飲料等製造業の事業所数，従業者数，
製造品出荷額等の推移

（単位：所，人，百万円）

	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
平成 9 年	446	12,800	530,884
平成 10 年	467	12,869	519,696
平成 11 年	441	11,628	395,333
平成 12 年	439	12,028	582,896
平成 13 年	433	12,087	468,833
平成 14 年	410	11,697	468,208
平成 15 年	420	11,365	543,188
平成 16 年	399	11,280	619,739
平成 17 年	405	11,220	600,431
平成 18 年	380	11,033	599,640

資料：京都市総合企画局「平成18年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

図Ⅱ－３－２－１　食料品・飲料等製造業の事業所数，従業者数，
製造品出荷額等の推移



資料：京都市総合企画局「平成18年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

表Ⅱ－３－２－２　食料品・飲料等製造業の主な産業（細分類）別事業所数，従業者数，製造品出荷額等

（単位：所，人，百万円，％）

	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
	平成18年	構成比(%)	平成18年	構成比(%)	平成18年	構成比(%)
食料品・飲料等製造業	**380**	**100.0**	**11,033**	**100.0**	**599,640**	**100.0**
生菓子製造業	75	19.7	2,360	21.4	31,355	5.2
他に分類されない食料品製造業	49	12.9	971	8.8	12,511	2.1
その他のパン・菓子製造業	31	8.2	468	4.2	5,856	1.0
清酒製造業	22	5.8	873	7.9	53,086	8.9
めん類製造業	22	5.8	358	3.2	5,134	0.9
野菜漬物製造業（缶詰，瓶詰，つぼ詰を除く）	21	5.5	1,051	9.5	12,178	2.0
豆腐・油揚製造業	21	5.5	594	5.4	9,914	1.7
その他の水産食料品製造業	16	4.2	676	6.1	12,281	2.0
そう（惣）菜製造業	16	4.2	584	5.3	7,255	1.2
ビスケット類・干菓子製造業	16	4.2	333	3.0	4,499	0.8

資料：京都市総合企画局「平成18年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」
　　なお，細分類については主なものを取り上げている。

表Ⅱ－３－２－３　酒税課税数量（清酒）に占める伏見酒造業の比重の推移

（単位：ｋℓ，％）

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	17年度/13年度
全国	983,807 (100.0)	929,573 (100.0)	868,430 (100.0)	753,011 (100.0)	747,778 (100.0)	76.0
伏見地区	126,140 (12.8)	120,544 (13.0)	127,517 (14.7)	114,719 (15.2)	112,909 (15.1)	89.5
灘地区	287,260 (29.2)	265,902 (28.6)	222,653 (25.6)	197,991 (26.3)	190,276 (25.4)	66.2

資料：全国「国税庁統計年報書」
　　伏見地区,灘地区の数値については，大阪国税局からの聞き取りに基づく。
注：「灘」は西宮，芦屋，灘の税務署管内の合計，「伏見」は伏見税務署管内
　　（　）内は全国に占める割合

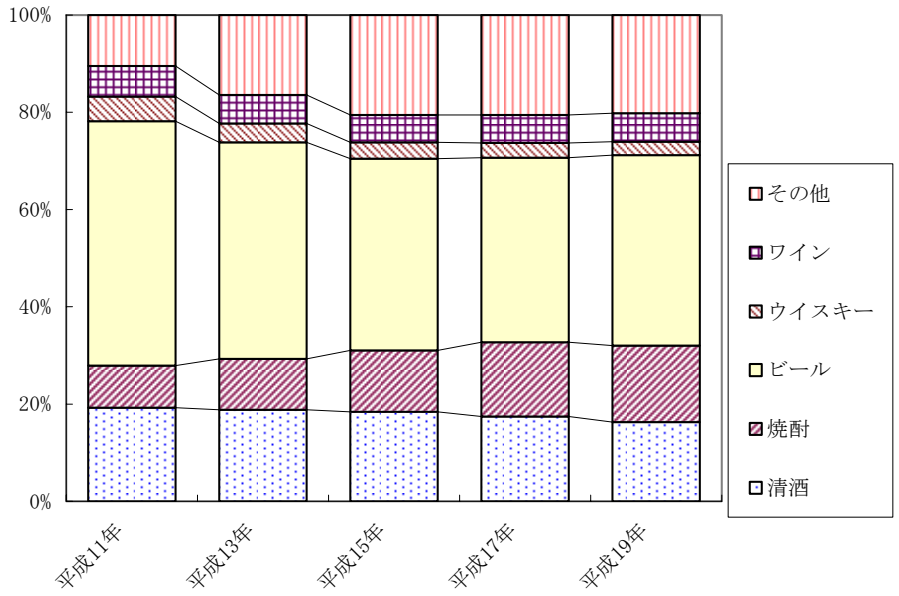
表Ⅱ－３－２－４　全国の酒類の消費動向の推移

（単位：円，％）

	平成11年	平成13年	平成15年	平成17年	平成19年	平成19年／平成11年
酒類全体	50,978	47,808	45,952	39,555	39,358	77.2
清酒	9,815	8,990	8,446	6,907	6,407	65.3
焼酎	4,419	5,009	5,809	6,030	6,204	140.4
ビール	25,607	21,289	18,113	15,015	15,407	60.2
ウイスキー	2,596	1,866	1,556	1,200	1,085	41.8
ワイン	3,215	2,806	2,589	2,274	2,308	71.8
その他	5,326	7,848	9,439	8,129	7,947	149.2

資料：総務省「家計調査年報」

図Ⅱ－３－２－２　全国の酒類の消費動向の推移



資料：総務省「家計調査年報」

② 生菓子製造業

京菓子の歴史は古く，口伝によると，奈良時代に朝廷の御用を勤めた後，平安遷都に伴って京に移転した事業所も存在するほどである。このように，長い歴史と伝統を誇る京菓子は,茶道とともに発達し,御所の年中行事や神社仏閣の供饌（ぐせん）菓子として供され，現在でも，華麗さや品質の高さで全国的に親しまれている。

平成18年工業統計調査結果報告(従業者4人以上の事業所）によると，京都市の生菓子製造業は事業所数75所，従業者数2,360人，製造品出荷額等313億55百万円である。

近年の製造品出荷額等の傾向を見ると，平成 14年までは減少傾向が続き,平成15年を機に増加に転じている。その後も増加基調で推移し，平成18年は313億円と昨年比28億円の増加となっている〔表Ⅱ－3－2－5〕。

平成19年の菓子類の全国の消費動向を平成11年と比較すると，全体的に約80%となっている。なかでも，消費者の健康意識の高まりも反映して，スナック菓子が大きく落ち込み,61.5%となっている〔表Ⅱ－3－2－6〕。

表Ⅱ－3－2－5　生菓子製造業の製造品出荷額等の推移

（単位：万円）

	製造品出荷額等
平成9年	3,171,724
平成10年	3,202,946
平成11年	2,786,283
平成12年	2,713,829
平成13年	2,517,018
平成14年	2,470,089
平成15年	2,618,307
平成16年	2,620,022
平成17年	2,854,579
平成18年	3,135,523

資料：京都市総合企画局「平成18年工業統計調査結果報告（従業員4人以上の事業所）

表Ⅱ－3－2－6　全国の主な菓子類の消費動向の推移

（単位：円，%）

	平成11年	平成13年	平成15年	平成17年	平成19年	19年／11年
菓子全体	80,279	77,584	76,739	63,890	64,873	80.8
和生菓子	12,407	12,467	11,997	10,323	10,543	85.0
洋生菓子	17,722	16,980	17,096	13,949	14,790	83.5
せんべい	5,449	5,362	5,057	4,251	4,410	80.9
スナック菓子	4,713	4,268	4,171	2,791	2,898	61.5

資料：総務省「家計調査年報」